

## 中新広州知識城

(Sino-Singapore Guangzhou Knowledge City)

都市： 広東省広州市

分類： 都市開発型（新規）、工業区開発型、再生可能エネルギー導入型

時期： 第1期（2010年～2015年）、第2期（2016年～2030年）

予算： 約180億元（約2160億円）

面積： 123km<sup>2</sup>（うち建設用地60km<sup>2</sup>）、第1期は6.12km<sup>2</sup>

人口： 50万人（2030年ころ）

主体： 広州市政府、シンガポールSingBridge International Singapore社

政府機関： 広州市知識城市管理委員会

参加企業： 中新広州知識城投資発展公司、シンガポールKeppel社（吉宝企業）、  
シンガポールAcendas社、日立製作所、スイスABB社、独Siemens社、蘭Philips社

### <都市開発型（新規）><工業区開発型>

中国とシンガポール両政府が共同で開発する都市。ハイテク人材を集め、先端的な製造業や知識産業の拠点とするとともに、環境に配慮した都市づくりを目的にする。広東省における産業育成と持続可能な成長のモデル都市のひとつと位置付ける（図1）。人口50万人のうち就業人員27万人を想定している。

蘿崗区（らこうく）の北、中、南の3エリアにそれぞれ中心街を建設し、その周りに住宅地をいくつか配置する。住宅地は中・低密度にするとともに敷地内に540の公園を設け、グリーン・ゾーンで住宅地を取り囲むようにする。広州市中心部と地下鉄で結び、さらに広州・東莞・深圳鉄道にもつなげる。

IT（情報技術）、バイオ・医薬、エネルギー・環境、先端技術、研究・開発、文化産業、教育、健康・福祉の8分野の企業誘致を目指す。

### <再生可能エネルギー型>

PhilipsはスマートグリッドやITの活用によって事故や渋滞を防止するシステムを研究する。日立製作所は再生可能エネルギーやエネルギーマネジメントの研究開発拠点を設ける



図1 2030年までに50万人都市を建設  
中新広州知識城の完成予想モデル（写真提供：日立製作所）

<参考資料>広州市政府ポータルサイト：<http://www.gz.gov.cn/>